

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年12月5日（火）

2 確認箇所

2号機タービン建屋

3 確認項目

2号機原子炉格納容器ガス管理設備の運用状況

4 確認結果の概要

原子炉格納容器（以下「PCV」という。）内は、窒素封入設備により、配管の腐

食や水素ガスの滞留などを防止するためにPCV内部へ不活性ガスである窒素を封入し、周囲から空気がPCV内部に流入しないように内部を正圧に保っている。また、PCVガス管理設備により、放射性ダストを除去するフィルタを通して排気するとともに、PCV内部の水素濃度、放射性希ガス濃度等を測定、監視している。

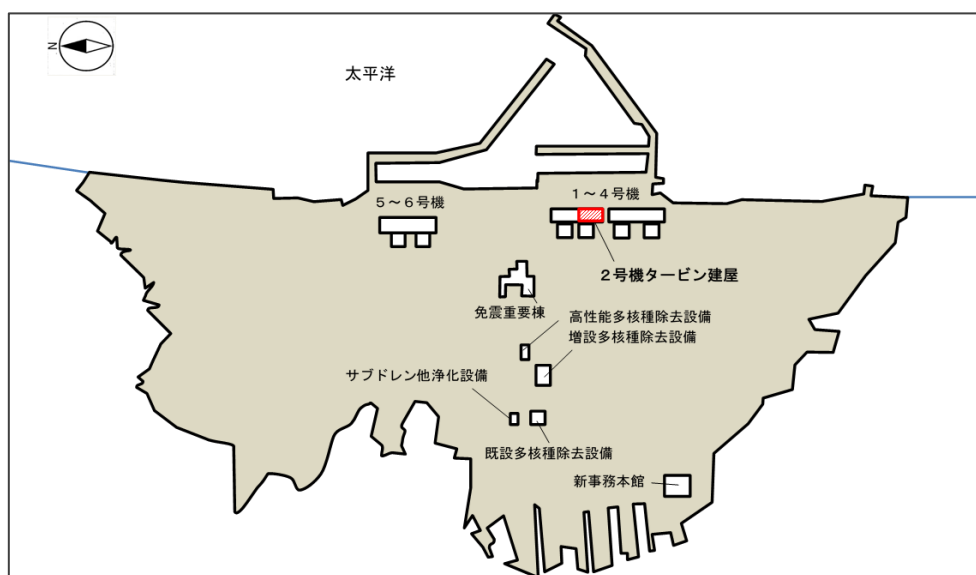
本日は、排気側の設備であるPCVガス管理設備の運用状況を確認した。

（図1）（前回確認：[令和5年7月5日](#)）

なお、2号機では、PCVの詳細内部調査が予定されており、調査装置のアクセスルート構築のため、X-6ペネ*内の堆積物除去及びPCV内の干渉物撤去を実施する計画である。この作業の際、PCV内部の放射性ダスト濃度が上昇することが懸念されており、東京電力は、万一に備えてガス管理設備の既設フィルタ及び排気ファンの下流側に、フィルタ付きの仮設局所排気設備を追加として設置している。

- ・2号機PCVガス管理設備の一部（PCVガス管理設備現場制御盤、ダストモニタ、希ガス放射線モニタ、ダストモニタ吸引ポンプ等）は、塩害対策のため、ハウス内に設置されており、また、当該ハウスには塩害対策ハウス用送風機が設置されていた。（写真1）
- ・各所が常時監視できるようにWEBカメラが設置されていた。（写真2）
- ・ダストモニタ吸引ポンプは、金属製の囲いで覆われ厳重に管理されていた。（写真1-5）
- ・ハウス内PCVガス管理設備について、目視の範囲内で破損等は見受けられなかった
- ・仮設局所排気設備は、ハウス内に設置されており、フィルタ付き仮設局所排気設備やダストモニタの設置状況は前回と位置等に変更はなく、目視の範囲内で破損等は見受けられなかった。（写真3）

※ 作業用のPCV貫通口(ペネトレーション)



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
塩害対策ハウス用送風機



(写真1-2)
PCVガス管理設備現場制御盤



(写真1-3)
ダストモニタ



(写真1-4)
希ガス放射線モニタ



(写真1-5)
ダストモニタ吸引ポンプ



(写真2)
WEBカメラ



(写真3-1)
ハウス外観（仮設局所排気設備）



(写真3-2)
フィルタ付き仮設局所排気設備（仮設局所排気設備）



(写真3-3)
ダストモニタ（仮設局所排気設備）

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。